

3月20日(月)は、今年度最後の登校日となりました。大掃除の後、「協創賞」(様々な活動を通じて成果をあげた生徒・団体への奨学金給付)の表彰式が行われ、続いて全国大会に出場するバトン、器械体操の壮行式が行われました。その後、終業式が行われ、新年度に向けて「良い準備」をすることについて確認しました。

そして、中学3年生57名の卒業証書授与式が行われました。今年は、中高6か年一貫という意味合いを重視し、保護者や来賓などが参加しない簡略化した形で実施しました。答辞で「春から高校生としての自覚を持って頑張ります」と前生徒自治会長の決意表明がありました。

以下は、終業式での校長講話です。  
(右の写真は、中学校卒業証書授与式での一コマ)



## 信念を築き、貫く

今年に入ってから、「1月は往ぬる、2月は逃げる、3月は去ると言っ、時間の経過をとにかく早く感じる、時間を大切にしておごそう」と話しましたが、本当にあっという間に今日の終業式となりました。今年度最後の登校日です。

私たちは、2020年から新型コロナウイルス感染症と戦ってきました。様々な要因で感染者数も減少し、5月8日には新型コロナの感染症法上の位置づけが「2類」から「5類」になります。伴って、4月からのマスク着用は推奨から不要へと移行するようですが、「利他の心」を持って臨機応変に周囲の人への配慮をしていきましょう。

さて、今年度、学校生活の中で様々な動きがありましたが、その中でも特筆すべきことは、国公立大学の合格者が13名となったことです。昨年度の卒業生が広島大学医学部医学科に合格、高校3年生が北海道大学文学部、島根大学教育学部などに合格しました。広島大学医学部医学科の合格は、非常に素晴らしいことです。一年間予備校に通い、去年果たせなかった目標に向かって、絶対医者になりたいと突き進んだ精神力は実に見事です。

また、とくに北海道大学、島根大学に合格した2人は学校での勉強を大切にしていました。普段、休憩時間や放課後は先生方に質問をして教えを請い、校内スマート予備校を活用し、LRCの自習室にはほぼ毎日残って勉強するなど、努力し続けました。見事です。高みを目指すこと、叶えるんだという想いを絶やさないうこと、努力すれば結果は得られるということ、やりきることを先輩たちが証明してくれました。

ところで、中学、高校を経て、なぜ大学や専門学校などの上級学校を目指すのでしょうか。もっと言うと、国公立大学を含め、関東関西の有名私立大学や中四国を代表する広島修道大学進学を目指すのでし

うか。あるいは、自分の興味関心のある大学の学部学科を目指すのでしょうか。それは、興味関心に基づく学びの幅を広げたいという人もいれば、将来の職業に就くための準備だという人もいれば、大学で何等かのきっかけを掴みたいという人など、様々でしょう。

私は、先日の高校卒業式で、「私たちは今、将来を予測することが困難で、これまでの常識を覆すような社会変化が生ずる時代に差し掛かり、生活様式や価値観を一変させてしまうかもしれない状況に直面しています」と話しました。闇雲にみなさんの不安を煽る訳ではありません。私を含めとりあえず平穏無事な生活を送っていますが、長引くロシアとウクライナの戦争は言うまでもなく、日進月歩のネット環境や科学技術の発達は毎日のニュースを賑わしています。自分たちが感じていないだけなのかも知れませんが、様々なダイバーシティ(多様性)が身の回りに変化をもたらし、そのことへの対応が求められている気がしてなりません。

ならば、どうしたらいいのでしょうか。好奇心を研ぎ澄まし、探究力を身につけていくしかないのでしょうか。そうすることで最適な解答が見つかり、それが先々を見通して、「本当の幸せ」を掴んでいくことに繋がっていくのだと思います。だからこそ、学ぶ意欲に満ち溢れ、継続して己を磨きたいと願い、さらなる高みを目指そうとする人が集う場で学びたいということから上級学校を目指すのでしょうか。

「将来を予測することが困難」ですが、自分はどんな人間で、どんな方面で能力を発揮できるのだろうか。そのためには何をしたらいいのだろうか。他者に流されず、あとから後悔しないよう、こうするんだという信念を築き、貫いてください。

4月から新たな学びが始まります。この春休み、次のスタートに向けて「良い準備」をしていきましょう。